



中川小学校SPS認証に向けての取組

～矢掛町における安心・安全な学校づくりの推進～

コーディネーター紹介

森分 志学 NPO法人だっぴ 代表理事

｜ 認定ワークショップデザイナー

岡山県倉敷市出身

岡山大学大学院教育学研究科卒業

小学生の頃から、野球少年。

大学時代は、麻雀青年。

大学3年生の頃、進路選択への問題関心が生まれ、
高大接続（高校から大学への移行）の課題に取り組む。

教育系広告代理店へ就職。

2017年3月に退職、NPOの世界へ。2020年より現職。

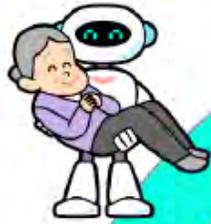




矢掛町では、コミュニティ・スクール（以下CS）や学校評価をベースに、**S
セーフティプロモーションスクール（以下SPS）**の考え方を取り入れた防災教育を核とする**安全・安心なまちづくり**に取り組み始めた。

関係機関や地域住民、学校が連携して実践と研究を深めることで、“**自分たちのまちは自分たちで守る**”という主体的な意識と行動を育む。

P(計画)



安全で安心なまち矢掛を創る

—セーフティプロモーションスクールの考え方を生かして—

D(実行)

岡山県教委



公助

コミュニティ・スクール
学校評価



学校安全推進委員会
保こ小中高、町防災担当、住民代表
等で組織
合同避難訓練等計画立案
防災教育に関する研修の充実



C(調査)

県立高等学校1校

災害時の支援活動等において、適切な役割を自ら判断し主体的に行動できる生徒

自助

中学校1校

防災活動等の大切さを理解し、自ら考え主体的に行動できる生徒

小学校6校

災害の危険について、自ら考え主体的に行動できる児童

1認定こども園3保育園

緊急時に大人の指示に従い、落ち着いて行動できる幼児

モデル校
中川小



教育委員会(学校教育係・生涯学習係)
町長部局(総務防災課・こどもみらい課・町民課等)

共助

地域学校協働活動

学校安全地域連携
コーディネーター(外部人材)
町教委に配置 ファシリテーターとしてCS・熟議等の活性化
児童と教職員、保護者や地域住民の信頼関係醸成

公民館

自治会

消防団



A(改善)

実施体制





学校運営協議会として学校保健安全委員会を開く

→ 運営の効率化





- 熟議「中川っ子の未来を語る会」のプログラム企画運営
 - 地域合同防災訓練の企画運営協力
- ➔地域連携の質向上





- 岡山大学 宮道力先生を招いての公開研修
 - 非常食品を活用した調理実習
 - 中国学園大学と協力し、仮想現実の災害を体験する授業
- ➔ 災害時の自助・共助について考える



【中川小学校】今年度の取り組みを経て



コーディネーターの必要性

学校として、以下の点で有用性があった。

- 児童や地域の方の多様な意見を引き出すことができた
- 児童と地域住民が年齢の壁無く意見交換し目標に向かって話し合えた
- 担当者の思いを実現するためにワークショップが企画できた

体験型の学習の重要性

防災訓練や体験型イベントを積極的に実施し、児童たちが自ら体験することで、防災意識を高める。

多様な災害への対応

地震だけでなく、火災、水害など様々な災害に対応できるよう、多角的な防災教育を行う。

家庭との連携

学校で学んだことを家庭で復習したり、一緒に防災グッズを揃えたりするなど、家庭での取り組みも大切



- 校長会・教頭会でコーディネーター紹介
- 学校安全研修会の実施
中川小学校の事例共有・学校安全の取り組みの考案





学校安全推進委員会の設置

保育所・認定こども園・小中・県立高校・行政・消防・地域代表が参画し、合同避難訓練や研修を計画・実施。

学校安全地域連携コーディネーター配置

CS会議や地域連携を活性化させる「コーディネーター」を町教委に置き、各校の安全教育を後押し。

CSと地域学校協働活動の一体的推進

中川小のSPSモデルを参考に、公民館や自治会と連携しながら防犯・交通安全・防災を強化。保育所・認定こども園・小中高一斉の避難訓練も検討。

学校評価への位置づけ

評価項目に「安全・安心な学校づくり」を加え、地域と一体となったS-PDCASサイクルを継続。

S-PDCAS：【S】方略【P】計画【D】実践【C】評価【A】改善【S】共有





コーディネーターa 仲介者的



社会関係資本（つながり）は属人化する

→調整がコーディネーター業務である必然性▲



コーディネーターβ ディレクター的

